「負けて勝った大東亜戦争」の説明では、日本は戦闘には負けたが、戦争目的である大東亜・亜細亜の植民地解放は達成した。侵略戦争ではなく英米仏蘭の植民地解放の戦争をしたことを強調した。

引き続き、納骨堂4室を時計回りに案内し、第2展示室では、特攻隊の記録を写真、遺書、パネルで説明する。青森県の特攻隊員は「加藤幸二朗陸軍少佐・飛行第六十二戦隊」他33名である。

約30分の案内説明は、戦没者の慰霊と顕彰、大東亜戦争の意義理解に寄与出来た満足感を得た貴重な体験となった。

岡山県偕行会
令和6年度定期総会

広報担当理事　綱島俊昭　陸自81

岡山県偕行会は、去る5月12日（日）午前10時から、岡山地方協力本部会議室等において次により、総会等を開催した。

1　定期総会

参加者は、元自衛官9名で、午前10時、岡総務理事の開会の辞に続き国旗に敬礼、続いて国歌斉唱、続いて陸自75期角南会長が開会の挨拶を行い、議事に入った。

議案は、令和5年度事業実績報告、同収支決算報告、監査結果報告が承認された後、令和6年度事業計画並びに予算計画について審議し、滞りなく承認された。

特に、令和5年度事業実績報告では、事業推進施策として「忠魂碑等の現況調査の継続」を図り、「吉備の国巡礼ウォーク」に参加し、6回、約50カ所の忠魂碑等の現況把握に努めた。

また、新たな事業として計画した「近現代史・思想の調査及び研究」の第1回の催しとして、台湾有事並びにウクライナ戦争の現状と見通しについて勉強会を実施し、参加者相互の意見を交換するとともに理解を深めた。

令和6年度事業計画では、方針として「世代交代による内部態勢の充実を図りつつ、偕行社設立の根本精神『英霊に敬意を』『日本に誇りを』『郷土に愛を』に思いを致して、戦没者の慰霊顕彰及び陸上自衛隊への支援を主体に事業を推進」し、また「近現代史・思想の調査及び研究を実施する」事を重点に事業を推進していくことにして全員の賛同を得た。

2　講演会並びに懇親会

その後、場所を移して、今回初めての岡山県隊友会との共催行事として、11時30分から約1時間、千葉科学大学客員教授で元中部方面総監　山下裕貴元陸将の講話「防衛技術の趨勢と日本の安全保障」を拝聴した。山下氏は、ウクライナ戦争勃発後、様々なメデイアに登場され情報を発信されるとともに、執筆活動も活発に行っておられて、爽やかな弁舌とユーモアを交えた興味深い講話を聞くことが出来て大変有意義であった。

続いて、13時15分から懇親会を実施したが、岡山県隊友会と共催のため参加者も多く、また旧知のOBとも再開して現況を交換し合うなど、相互理解を深めた。

2時間の楽しい時間はあっという間に過ぎて、名残惜しかったが来年の再会を約して散会となった。

埼玉偕行会
振武台陸上防衛懇話会
令和6年度役員の紹介

事務局　國澤輝生　陸自75

令和6年度の役員体制は次の通りとなりました。

○埼玉偕行会役員